

論文審査の結果の要旨

尚
論文提出者氏名 瀬崎 圭二

瀬崎圭二氏の博士學位論文『大正消費社会の成立過程とく文学』は、日露戦争後から関東大震災と金融恐慌までの期間を対象とし、消費社会の成立過程と、それを促す多様な言説との相互関係を分析することによって、日本の近代社会の中で流行(モード)が形成されていく特質と、それによってもたらされる欲望の表象を明らかにしたものである。

瀬崎氏の論文の独自性は、第一に百貨店が刊行した宣伝用雑誌を発掘し、それらの資料の精緻な分析をとみして、商品を売る側が意図した消費への欲望をかき立てる言説戦略を明らかにしたところにある。三越百貨店の『花ごころ』から『三越』にいたる宣伝雑誌、白木屋百貨店の『家庭のしるべ』から『流行』にいたる宣伝雑誌の誌面に載った、同時代の著名な文学者・知識人の著作総目録自体に実証研究の大きな成果と貢献を認めることができる。第二に、尾崎紅葉、森鷗外、夏目漱石、谷崎潤一郎らの小説を、流行(モード)の形成との関連という、これまでとは全く異った文脈の中に位置付け直し、新しい批評の論点を提示したことである。そして第三に、流行(モード)を消費する者として意味づけられた女性に対し虚栄という症候が、付与されていく心理的・思想的背景を明らかにし、経済ミステリと文学表象の内在的結合を明示した点である。その意味ですぐれた言語態分析の実践として評価できよう。

論文審査の中では、近世と近代における流行をめぐる言説の断絶よりはむしろ連続性を強調すべきこと、精神分析的な分析の可能性が十分に生かされていないこと、小説テキストに内在する構造や運動と欲望の表象の関係づけが不十分であることなどが指摘された。

以上の議論をふまえて、慎重審議の結果、瀬崎圭二氏の論文が博士(学術)の学位にふさわしいと判断し審査委員全員により合格と判定した。